

		計画時の想定		現時点での状況（変更点）	分析
			備考		
事業効果の定量的分析	費用便益分析	計画時点では費用便益の分析手法が確立されておらず、算出することができなかったものの、本事業整備による事業効果が期待される。	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な便益内容 走行時間の効果（走行時間の短縮） 走行経費の効果（時間短縮による走行経費の節減） 受益者 道路利用者 	<ul style="list-style-type: none"> $B / C = 3.50$ 総便益 B = 391.0 億円 総費用 C = 111.6 億円 算出根拠 費用便益分析マニュアル（国土交通省平成15年8月） 	本事業整備による事業効果が期待できる。
	その他の指標（代替指標）				
事業効果の定性的分析	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 歩車道分離による歩行者、自転車の安全確保 鉄道とアンダー交差となることにより安全性が向上 	<ul style="list-style-type: none"> 受益者など 地域住民、道路利用者 	変更点特になし	
	活力	<ul style="list-style-type: none"> 物流の効率化の支援 地域間交流連携の強化 本路線整備による事業地周辺の道路渋滞緩和 駅前再開発事業との一体整備による新たな活力をもたらす街づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 受益者など 地域住民 	変更点特になし	
	快適性	<ul style="list-style-type: none"> 十分な幅員が確保された歩道による快適性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 受益者など 地域住民、道路利用者 	変更点特になし	
	その他				
自然環境等への影響と対策		<ul style="list-style-type: none"> 道路の整備により旅行速度が向上し、CO₂の排出量が削減される。 		変更点特になし	
その他特記すべき事項		<ul style="list-style-type: none"> 鉄道事業者との協議状況：既に交差方法等の計画協議及び施工方法や安全対策等の設計協議を終え、平成16年度に協定を締結し現在、工事に着手している。今後、大幅な事業費変動の見込みはないと考えている。 			